

教育委員会

構成メンバー : 委員長: 2階療養棟 今村

デイケア 岡、 GH 宮田、 あしたの風 中間、 訪看 安藤

居宅 中西、 リハビリ 有蘭

1、紹介

教育委員会は、愛と結の街グループ全体の研修を企画しており、職員の資質向上に努めています。

月1回開催を計画しており、中でも感染症、身体拘束につきましては年2回実施し、

全職員が必ず参加できるように務めております。

2、目的

職員として、習得しなければならない知識を皆で学びあうことで、専門職業人としてまた社会人としての資質向上を目的としています。

3、活動実績

eラーニングで研修を実施。

5月: 倫理

6月: 感染症①

7月: 個人情報

8月: 身体拘束①

9月: 接遇

10月: 症例発表 (感染予防対策のため、発表者と所属長及び施設長のみで開催)

11月: 感染症②

12月: 事故の発生・再発予防

1月: 身体拘束②

1月: 口腔ケアについて

2月: 認知症について

4. その他

新型コロナウイルスの流行で救急法が実施できませんでした。

5. 令和4年度の目標・計画

『心豊かな生活を目指し 共に育むふれあいの街』

の理念の実現に向けて、職員一人ひとりの知識と資質を高める。

- ・ eラーニングを活用し、受講後アンケートを提出
- ・ 救急法を実施できるよう計画をたてる。

広報委員会

構成メンバー : 委員長 谷口 愛 (介護老人保健施設 2 階)

脇田 亮 (介護老人保健施設 3 階)

前田 渚、向原 美夏 (旧 : 笹貫訪問看護ステーション)

畠中 政樹 (デイサービスセンターあしたの風)

石原 南 (グループホーム 愛と結の街)

田中 美穂 (通所リハビリテーション)

1、紹 介

広報委員会は、愛と結の街の活動や取り組みを広く知っていただく目的で活動している。

主な活動内容は、①広報誌「愛と結の街新聞」発行、②愛と結の街グループウェブサイトの運営・更新。

〔広報誌〕様々な職種からの情報が発信できるよう記事内容を考案し、読みやすさを意識した紙面の編集を行っている。読者へ向けアンケート・記事募集を定期的に行い、需要のある情報の発信に努めている。

〔ウェブサイト〕全ページの情報が最新であることを意識し、運用状況の確認・情報収集・更新を行う。

慈愛会グループの広報担当者との連携を図り、業務に関する問題解決や広報活動の充実を図っている。

2、目 的

1 : 広報誌によるご利用者、ご家族、スタッフへ向けた広報活動の充実を図る。

2 : 愛と結の街グループのウェブサイトの運営・内容の充実。

3 : 広報活動に対するアンケート調査や記事募集を実施しニーズの把握に努める。

3、活動実績

- ・施設内の活動や取り組みを紹介する目的で、広報誌を4月8月12月の年3回作成・配布。
- ・配布方法 ・請求書へ同封、訪問先で配布。・施設内へ観覧用に配布。・来客用に玄関先に設置。
- ・印刷部数は530部～550部。カラーA3サイズ両面2枚印刷したものを折って配布。
- ・事業所の取り組み内容、施設内行事、保育園との交流の様子などを掲載。
- ・サイト内の情報が最新であることに努めた。

令和3年度5月：広報誌春号発行

令和3年1月：広報誌冬号発行

5月：夏号作成計画 原稿依頼

2月：次年度春号作成計画 原稿依頼

6月：校正、編集

3～4月：校正、編集

7月：編集、印刷、折込

8月：校正、編集

9月：広報誌春号発行

10月：冬号作成計画 原稿依頼

11月：校正、編集

12月：校正、編集、印刷

4、令和4年度の目標・計画

- ・年3回、広報誌を発行し情報発信する。配布方法、印刷方法の検討。
- ・ウェブサイトの運営・必要時の更新が円滑に行えるよう、更新作業の指導、協力体制づくりを行う。
- ・広報誌、ウェブサイトへ掲載している情報の見直し、コンテンツの充実をめざし活動する。
- ・フェイスブックへ活動内容を投稿し施設の取り組みを知ってもらう。

ボランティア委員会

構成メンバー : 委員長 : 斉藤 尚美 (相談員)

メンバー : 門脇 未歩 (3階療養棟)、鮎川 莉奈 (2階療養棟)、

坂野 初代 (グループホーム)、南 あゆみ (はなぶさ)、井坂 紀子 (居宅支援事業所)

1、紹 介

はじめにボランティアとはラテン語のボランタスを語源としており、自発的な社会活動参加のことをいうとの事です。当委員会も、「介護老人保健施設 愛と結の街」を活動の場とするボランティアの方々に自由意志を損なうことなく、活動の促進と円滑な運営を図るために設置され、各部署より選出された委員で構成されている。

2、目 的

ボランティアの受け入れ・出向により、各人が持てる力を存分に発揮できる場の提供を行い、活動を通して各人の自己実現や、受け入れ側・出向側・参加側にとって、「WIN-WIN-WIN」の充実した時間を共有することができ、各人の生活意欲へつなげることを目的とする。

3、活動実績

- ・ ボランティアの受け入れ相談
- ・ 社会人ボランティアの受け入れ案内
- ・ 高齢者いきいきポイント事業受け入れ
- ・ おひさま認定こども園との世代間交流事業 (プレゼント交換・リモート交流)
- ・ 美化活動 (R 3 年度は未実施)
- ・ ・ 赤い羽根共同募金 街頭募金活動 (感染症対策にて参加見合わせ)

4、令和4年度の目標・計画

- ・ 今年も感染症対策を実施しながら、出来る限りのボランティアの受け入れを行い、新規ボランティアの獲得や既存の形にこだわらない新しい形での交流を行っていく。
- ・ 地域の児童施設をはじめ地域の方々に向け、慈愛の心をもちボランティア活動を行っていく。

省エネ委員会

構成メンバー： 村井真由美、(デイケア)、今西由香 (2 階療養棟)、木場田哲也 (3 階療養棟)

中村真由美 (グループホーム)、中馬健一 (はなぶさ)、前屋敷さよ子 (あしたの風)、

安藤朋文 (居宅)、坂口香美 (ヘルパー)、佐別當誠子 (地域連携室)、大脇万喜 (リハビリ)、

宮路ゆかり (栄養管理科)、岡村則和 (事務部)、田中一気 (施設管理課)

1、紹介

慈愛会では、各病院・施設に「省エネ委員会」を設置し、法人全体で省エネに取り組んでおります。当施設内でも平成 23 年に「省エネ委員会」を開設しました。省エネと呼ばれる省エネルギー運動は、生活内容を見直して省ける無駄を省くのが目的です。現在の地球温暖化防止を目的とした省エネは、2005 年に発効された京都議定書に基づくものといえます。

消費電力・ガス量を減らすことを目的とした省エネでは、暖房の設定温度を下げて冷房の設定温度を上げる、テレビの主電源などの待機電力の消費を減らすなどの省エネ活動が日本全体に定着しつつあるといえます。

当施設でも、デマンドコントロール装置による使用電力ピーク時のエアコンの使用制限、照明器具のこまめな電源の ON/OFF などの注意喚起、温水ボイラーの作動時間のタイマー設定、一部 LED 照明への切り替え、等を行い、省エネに取り組んでおります。

2、目的

効果的にエネルギーを使用することで、経費を削減し、二酸化炭素 (CO2) 排出を抑制することを目的とする。⇒施設における水道光熱費の削減にも繋がる。

3、活動実績

*各施設参加の省エネ会議 (毎月開催) への参加

*デマンドコントロール装置を設置し、データ分析を行う。

→10 時～12 時に 1 日の最大使用量を記録している。

*施設内への省エネ啓発活動、節電の周知

*クールビズの実施 (R3. 5～R3. 10)

○水道光熱費 (前年度比較)

電気使用料金 +18.3 万円

ガス使用料金 +119.2 万円

水道使用料金 + 31.6 万円

電気・ガス使用量については、燃料費の高騰のため

4、令和 4 年度の目標・計画

*各施設参加の省エネ会議 (毎月開催) への参加

*デマンドコントロール装置による最大電力使用量の管理

*施設内への省エネ啓発活動、節電の周知

*クールビズの実施 (R4. 5～R4. 10)

安全衛生委員会

構成メンバー : 野村秀洋（施設長）、壽幸治（谷山病院医師）、
岡村（事務長）、川崎友義（介護福祉士長）
室園 淳（安全運転管理者） 宮路ゆかり（栄養管理科） 田中一気（施設管理）

1、紹 介

野村施設長を総括安全衛生管理者（事業所を実質統括管理する者）とし、愛と結の街グループの産業医を迎え、月 1 回開催しています。

衛生委員会は、労働安全衛生法に基づき、従業者が 50 名を超える事業場は、設置を義務づけられており、労働者の危険または健康障害を防止するための基本となるべき対策（労働災害の原因及び再発防止対策等）などの重要事項について十分な調査審議を行っています。

2、目 的

- ①愛と結の街グループにおける職員の安全と健康を確保する
- ②快適な職場環境の形成を促進すること

3、活動実績

- *衛生委員会規程の作成・制定
- *労働局への職員検診の報告
- *毎月 1 回の定期委員会開催（第三週 火曜日）
- *施設内の環境整備
- *季節物・定番物に関する議題・テーマについての討議
- *ストレスチェックの実施
- *腰痛予防対策
- *安全運転対策

4、令和 4 年度の目標・計画

1. 安全運転に努める

- ① 朝礼での注意喚起の実施（1 回/1 ケ月）
- ② 安全運転講習会（2 回以上/年）

2. 腰痛予防に努める

- ① 始業前のストレッチの推奨
- ② 福祉用具の使用（リフト、スライディングシート、グローブの活用）

3. メンタルヘルス対策に取り組む

- ① ストレスを溜めない環境作りに取り組む（有給休暇 夏休 冬休の有効活用）
- ② 職員の变化に早期に気づき対応していく（面接、ストレスチェックなど）

4. 安心・安全な環境作りに努める

- ① 環境整備時などに設備の確認を行う
- ② ラウンドを行ない、危険箇所の早期発見に努める

感染委員会

構成メンバー : 委員長 今西

下大迫 有村 廣田 西山 田中 徳田 鳩宿 都外川 山中 壺岐 西田
今村（瑞）

1、紹 介

私たち広報委員会メンバーは、月 1 回各部署より集まり、感染症に対する職員の知識向上と必要な教育・実践を身につけリーダー意識を持ち、感染委員として日々取り組んでいます

2、目的

感染予防対策を習得、実践し利用者、ご家族、職員が安全な環境で過ごすことができる

3、活動実績

- ①毎月第 4 水曜日に感染委員会の実施（状況に応じての臨時開催）
- ②医療廃棄物の回収
- ③コロナウイルス感染症対策ポスターの掲示、ラウンドによる啓発活動、
- ④ワクチン接種の実施（コロナウイルスワクチン・インフルエンザワクチン・肺炎球菌ワクチン等）
- ⑤コロナウイルス感染症対策実行委員会との連携 BCP 作成等
- ⑥手指衛生サーベイランス実施（R4 年 2 月～）
- ⑦コロナ感染対策研修：（11 月 感染管理認定看護師による標準予防策 PPE 着用シュミレーションなど）

4、令和 4 年度の目標・計画

- 1.標準予防策を各職員が適切に実施することができる
- 2.職員の感染対策の理解と意識の向上に努める

リスクマネジメントマネージャー 令和3年度

構成メンバー : 中間 (あしたの風)

原田良二 (リハビリ)、濱田貴秀 (給食)

堀田珠世 (事務)、石堂麻美子、永谷朋恵 (グループホーム)

福元利英、福元綾子 (2 階療養棟) 木場田 哲也 (3 階療養棟)

川崎友義 (看護介護支援部)

1、紹 介

インシデント報告からインシデントに至った原因、再発防止対策に関することを検討し、各部署と情報共有することでアクシデントにつながらないように連携を図っている。その情報共有が予測できる、判断できるスタッフの意識や考え方を成長できる。また、より多くの方に安心してご利用いただくために、環境ラウンド (危険個所の) をおこない各部署にフィードバックし改善をおこなっている。アクシデント、クレーム (必要時に応じて) については迅速に対応するために安全管理委員会を関係職種により開催している。

2、目 的

インシデントやヒヤリハット事例の詳細な把握検討をおこない、医療介護事故の原因、再発防止対策に関する検討、提言、安全管理委員会との連携調整をおこなう。リスクの管理を行い、ご利用者、家族、スタッフの安全を確保する。リスクに対して察知できる、予測できる、判断できるスタッフの育成できる環境を作り、スタッフの危機管理能力が向上する。また、クレームを受け付け、適切に対応することで施設のブランドを維持する。施設内に設置してある感染対策マネージャー、防災管理委員会、広報委員会と連携し、事業所内の安全管理を行うことを目的としている。

3、活動実績

今年度よりリスクマネジメント委員会へ名称変更

①1 回/月の定例会議の中において、マネージャー間で情報共有し、発信した。

施設内・合同セーフティでのインシデント・医療安全について共有し、リスク感性を高め危機管理能力を高められ、場合によってはスタッフ間まで情報発信した。

②顧客満足度調査 (令和3年2月実施)

③環境ラウンドの実施: 安全対策ラウンド表をもとに実施 (令和2年6月、令和2年12月)

各部署への危険箇所の点検と改善提案した。

④アクシデント、クレーム対応 (安全管理委員会の開催)

☆令和3年度インシデント報告件数: 184 件 (前年度 292 件)

令和3年度アクシデント報告件数: レベル3 b ; 8 件 (前年度 14 件)

8 件のうち、骨折事例 4 例、離脱 1 件、頭部挫創 1 件発生

4、令和4年度の目標・計画

1) 目標 ; 「スタッフの危機管理能力およびリスク完成をさらに高める。安全な施設環境を提供する」

2) 活動内容 ①定例会議の開催 1 回/月

②環境ラウンドの実施 2 回/年

③アクシデント発生状況に関する分析調査と周知発信

④顧客満足度調査の実施

⑤KYT 研修の開催

⑥マニュアルの見直し

⑦必要なマニュアルの作成

防火マネジャー

構成メンバー： 野村秀洋（施設長）、原口悦江（看護部長）、村井真由美（デイケア）、今西由香（2階療養棟）、木場田哲也（3階療養棟）、中村真由美（グループホーム）、中馬健一（はなぶさ）前屋敷さよ子（あしたの風）、安藤朋文（居宅）、坂口香美（ヘルパー）伊地知幸輝（訪看）、佐別當誠子（地域連携室）、今村瑞香（栄養管理科）田中一気（施設管理課）、本田圭介（事務部）

1、紹介

「火災を起こさせない」ことを第一に考え、全職員が共通認識を持ちながら、日々の業務に取り組むことができる環境造りを考えています。また万が一、自然災害等が発生した場合に備えて、ご利用者や職員の安全を守る為に、各部署、建物の現状や避難経路等、日頃から実態に即した対策を、地域住民の方々と一緒に考えていきたいと考えております。そのために必要な防災対策 BCP の作成を防災委員会と連携して進めていきます。

2、目的

火災発生防止と火災及び自然災害発生時の被害を最小限に留め、ご利用者と職員の安全を守ることを目的とする。

3、活動実績

- * 年 2 回の避難訓練の実施（内 1 回は利用者参加の避難訓練、内 1 回は昼間想定 of 避難訓練）
- * 防災対策 BCP の作成補助、消防訓練マニュアルの周知
- * 防火シャッター等避難口付近並びに避難経路にある障害物の撤去・指導
- * 職員への定期的な消火設備・非常通報装置などの使用方法説明
- * 緊急連絡網の周知

4、令和 4 年度の目標・計画

『災害が発生した場合でも事業が安定的・継続的に提供できる体制の構築』

- * 防災委員会の設置（月 1 回開催）
- * 非常災害時の体制の整備
 - ①緊急連絡網の更新・連絡体制の確認
 - ②連絡手段・方法の確認
 - ③非常災害時に必要な防災グッズなどの整備
- * 定期的な消防防火設備や避難経路の点検・整備
- * 非常災害時に必要となる情報の整理
- * 火災発生箇所、並びに各種災害毎の避難経路・方法の周知
- * 地域と連携した災害対応の構築・強化

身体拘束廃止マネジャー

構成メンバー	野村 秀洋（施設長）	原口 悦江（看護部長）
	用貝 千尋（3階療養棟）	濱田 小百合（デイケア）
	田中 聖二（はなぶさ）	宮之城 里佳（リハビリ）
	下園 あけみ（あしたの風）	原田 博文（グループホーム）
	伊地知 幸輝（訪問看護）	壺岐 真理子（訪問介護）
	山辺 美雪（居宅）	海平 由起子（2階療養棟）

1、紹 介

私達、マネジャーは身体拘束廃止・身体拘束ゼロを目指して、メンバーを中心として活動しています。各部署、他職員に意識付けをするために呼びかけ、皆で考えながら、その都度モニタリング・評価を行い、廃止を目指しています。

2、目 的

ご利用者の尊厳と安全に心豊かな生活が送れるように環境を整える。

- ① 身体拘束廃止を全職員で取り組む体制を作る。
- ② 年に2回勉強会を開催し、身体拘束廃止・高齢者虐待についての知識と意識を高める。
- ③ 各部署において身体拘束についての勉強会を行っていく。

3、活動実績

- ① コロナ禍が継続中であり、身体拘束廃止委員で月1回の集まりが難しくなり、マターモストを活用しての委員会の取り組みとなったが、集まれる際は集合し現状報告・意見交換・今後の活動について話し合いを行っている。

身体拘束は、緊急やむを得ない場合のみ行い、その際は随時医師・看護師長・ケアマネ・担当者などで話し合い、検討しながら廃止へ向けて取り組みを行っている。最終決定は施設長が行う。

毎月身体拘束に関する説明書を提示しご家族に説明行い了承を得てサインをして頂く。経過記録へも月初め又は月末に毎月の評価と医師のコメントを頂く事とし、毎日の記録としても身体拘束の記録表への記入を行っている。身体拘束廃止のマニュアルも毎年1回は見直しを行っている。

- ② 今年もコロナ禍で集まっていた勉強会を開催することが出来なかった為、8月にeラーニングで身体拘束について勉強会を実施し、2月に高齢者虐待について穴埋め問題と事例集を配布し読んで頂くことで高齢者虐待について学び、アンケート結果からしっかりと意識付けすることが出来たのではないかとと思われる。

- ③ 身体拘束についての基本的な事は統一した資料を基に各部署で取り組んでもらい、グループワークについては各部署で起こり得る内容を事例として考えてもらい意識付けを行っていくことができた。

4、令和4年度の目標・計画

<目標> 身体拘束の廃止に取り組み、利用者の人権・権利擁護に努める。

<計画> 年に2回、全体での勉強会を行い、各部署でも勉強会を実施する。

「身体拘束について」・「高齢者虐待・権利擁護について」

高齢者虐待についてのマニュアルの作成を行っていく。

介護衣やミトンなど物品の確認と管理を行い、使用する際のメリット・デメリットや注意点を記した表の作成を行う。

N S T マネージャー

構成メンバー : 池上・迫田 (2階療養棟)、谷山・川崎→倉本 (3階療養棟)、
今元 (デイケア)、中蘭 (言語聴覚士)、大迫 (理学療法士)、
宮路 (管理栄養士)、西→坂野 (GH)

1、紹 介

当施設入所中のご利用者の栄養サポートを行っています。低栄養状態のご利用者の栄養状態改善、褥瘡の予防・発生時の栄養・体位の工夫・除圧マットレスの選択、経口移行・維持の検討などをD r・看護師・栄養士・介護福祉士・S T・P Tの多職種による関わりで対策の検討から実施までを行っています。また入所時に身体計測表を用いてサルコペニアの評価を行い予防に努めています。デイケアにおいても、体重変化をご家族にもわかりやすく見えるようグラフ化しています。

高齢者における栄養管理の重要性・生きるために最も大切な「食べる」ということを考え、ともに学びながら活動しています。

2、目 的

- ①入所時より身体計測、栄養状態・サルコペニアの評価、褥瘡予防を目的としたマットレスの評価・選定を行うこと。
- ②ご利用者に対し、低栄養時の栄養状態改善への取り組みを行うこと。
- ③褥瘡発生時の創部の観察・栄養状態・マットレス・ポジショニングなど総合的に確認・是正すること。
- ④N S Tに関する各種勉強会の計画と実施すること。
- ⑤経口移行・維持に関すること。

3、活動実績

- ・毎月 経口維持加算者の報告・検討を行った。対象者は 2 3 4名であった。
- ・症例検討 (摂食嚥下障害 6件、褥瘡 4件、低栄養 9件) を実施した。
- ・褥創報告者数 2F: 8名、3F: 2名
- ・経口維持・加算シート (経口移行・経口維持計画) の入力方法の確認と統一を行った。
- ・低栄養フォローの基準について医師へ確認し、基準変更を行った。
- ・6月に褥瘡ケア学会の研究調査協力

<研修会>

- 施設内 勉強会 : 1回実施 (ナースিংサポートにて)
テーマ「褥瘡をつくらない介護の考え方教えます」
- 施設外 研修 : 「床ずれ対策 WEB セミナー 明日から実践 床ずれ・スキンケア対策」
看護師1名 オンライン参加・外部の研修 職員への伝達までは未実施

4、令和4年度の目標・計画

- ・「低栄養リスク改善加算」「経口維持加算」対象者の検討を行う
- ・マニュアルの見直しや修正、作成を行い充実を図る
- ・他職種にて充実した事例検討を行う
- ・各職種で情報共有し連携を図り、栄養状態の改善・是正を図る
- ・入所時から栄養サポートが必要な利用者が把握でき、早期介入を図ることができる。
- ・各メンバーで外部研修へ参加し、新しい知識・技術の習得し、職員へ情報提供を行っていく。
- ・褥瘡ケアに関するマニュアル作成する

口腔ケアマネジャー

構成メンバー：鮎川莉奈、川元真由美（2階療養棟）、永井日菜・川崎愛・浮津知美〔3階療養棟〕
加納美紀（グループホーム）

1、紹介

口腔内の環境を改善し、生活のリズムを整え QOL の向上を図ることを目的とする。

（虫歯・歯肉疾患・誤嚥性肺炎の予防・摂食嚥下リハビリテーションによる唾液分泌・口臭・味覚の保持による食欲増進を図る）

2、目的

R3 年度年間目標：『1 人 1 人に口腔ケアの重要性を理解して頂き、清潔を保つ』

3、活動実績

I・1 回/月定例会

- 1) 4 月： 年間目標 年間活動計画
- 2) 5 月： 物品管理 強化月間
- 3) 6 月： 自立している方への介入 強化月間
- 4) 7 月： 嚥下体操 強化月間
- 5) 8 月： 自立している方への介入 強化月間
- 6) 9 月： 物品管理 強化月間
- 7) 10 月： 歯の衛生週間ポスター作成
- 8) 11 月： DH にて、利用者対象講和、レク〔2階療養棟〕
- 9) 12 月： DH にて、利用者対象講和、レク〔3階療養棟、はなぶさ〕
- 10) 1 月： DH にて、利用者対象講和、レク〔GH、あしたの風〕
嚥下体操 強化月間
- 11) 2 月： 自立している方への介入 強化月間
- 12) 3 月： 今年度の評価・反省

R3 年度の肺炎発症者数→37 名〔2 階・3 階療の合計人数〕

2 階→15 人、3 階→22 人でした。 昨年より 2 階は減少したが、3 階は 9 人増えた。

全体として肺炎発症者 0 人ではなかったが、発症者数は昨年度よりも減少した。

II・施設内

1 月：『口腔ケア』の内容で E-ラーニングでの実施する。

感想等記入していただき今後の勉強会など参考にする。

III・施設外研修

提携歯科より案内いただき、リモートにて施設外研修参加し、後日サンプルなど届く。

4、令和 4 年度の目標・計画

R4 年度目標 『1 人 1 人に口腔ケアの大切さを理解して頂き、アドバイス等行い清潔を保つ』

排泄マネージャー

令和3年構成メンバー：中村美貴、森愛（3階療養棟）、有村 美紗子、小牟禮 輝行（2階療養棟） 宮田雅士（リハビリ）

1、紹介

排泄に関する窓口となり、気持ちの良い排泄を目指します。より良い排泄ケアの提供ができるように、何が問題になっているのか？その原因は何か？何を解決すべきか？を他職種と連携を図って、問題を解決し家族のQOLと共に、一人一人に合った排泄ケアの提供ができるように取り組んでいます。

2、目的

- ①気持ちの良い排泄を目指し、笑顔で毎日を過ごせるように援助する。
- ②スタッフ全員が利用者個々にあったパッドの選択ができる
- ③困難事例に対し、アドバイザーの方と連携・協働により原因追究し、適切な対応を検討する。
- ④家族、本人の不安な事に対し、他職種との連携により問題解決に努め、安心した生活が送れるように援助する。
- ⑤アドバイザーの方やオムツフィッターの方よりオムツやパッドの様々な種類・機能について学び知識や技術の向上に努め他スタッフへ伝達する。
- ⑥おむつ交換時に発生するスキンテアの発生の予防に努める

3、活動実績

- ・各病棟へオムツの選定や装着のアドバイスの実施(各階へアテントマイスター配置済み)
- ・排泄支援向上に向け、E-ラーニングでの勉強会実施
- ・排泄支援加算Ⅰ取得〔2階、3階療養棟利用者全員〕
- ・

4、令和4年度の目標・計画

- ①引き続き在宅復帰者への排泄動作指導、入所中の他職種連携によるご利用者の排泄動作の向上を目指す。
- ②適切なアウター・インナーの選定、各病棟委員会が当て方や適切な軟膏の使い方のアドバイスを行っていき双方にとっても快適な生活を目指しIAD発生防止に努める。
- ③スタッフ全体のケア・知識向上へつながる実施型の勉強会も検討していきながらE-ラーニングの実施。
- ④排泄支援

記録検討マネージャー

構成メンバー：切田 諒→脇田 亮（3階療養棟）、福島 昭平（2階療養棟）
畠中 政樹（あしたの風）、福満 貴幸（グループホーム。委員長）

1、紹介

記録マネージャーでは「心豊かな生活の支援に向けて、情報共有を図れるツールとなり、多職種の連携、スタッフが実践したことを証明し、質の向上につなげていく」を目的とし、フォーカスチャータリング及び寿入力（記録のIT化）を取り入れ、『記録』がよりよいものになるよう取り組んでいます。

利用者・家族の意志の尊重、また医療、看護、介護、リハビリテーションなどの各職種がチームで、利用者の目標・ケアプランに基づいたケアを提供していく中での記録の役割や重要性を、勉強会等を通して伝える活動をしています。

2、目的

1. 記録のIT化に伴いマニュアルを見直しそれを基準として記録に関する部分での連携と共有を図っていく
2. 記録方法の変化に対応しながらケアプランに連動した質の高い記録の書き方を浸透させていく
3. LIFE導入（予定）するにあたり他委員会などと連携を取り円滑に浸透できるように支援する

理念に基に利用者の目標・ケアプランに基づいたケアを提供したことを証明し、悔いの残らない最期の実現、悔いの残らない選択を支援していく

3、活動実績

- ・ 5月に新人向け勉強会実施
- ・ 2月にeラーニングにて介護福祉士をメインとした勉強会の実施。
- ・ 月1回のマターモスト会議及び必要時は集合して話し合いの実施。
（寿での困りごとや記録の統一事項、業務日誌の寿化検討、）

4、令和4年度の目標・計画

1. 記録のIT化に伴いマニュアルを見直しそれを基準として記録に関する部分での連携と共有を図っていく
2. ケアプランに連動した質の高い記録の書き方を浸透させていく
3. 勉強会（eラーニング）を通してスタッフに記録の必要性を深めていく

福祉用具マネジャー

構成メンバー : 福島昭平、岡留駿 (3F)、細樅友美 (リハビリ)、石原 南 (GH)、松元翼、野口文子 (3F)

1、紹 介

目標 現場での福祉用具の活用が増えるように推進を図る

- ① 福祉用具に関する現場研修への参加
- ② 福祉用具の活用法マニュアルの作成
- ③ 各階のスタッフで車椅子のブレーキ調整、ムシゴム交換ができるように発信

2、目 的

スタッフが福祉用具への意識を高め、その人その人に適した物を提供できるように活動しています。

また福祉用具の整備に管理を行うことで破損やインシデント・アクシデントの改善を行っています。

定期的な勉強会で福祉用具の活用法、ポジショニングなどの知識向上していただくような取り組みを行っています。

3、活動実績は聞

①、新人・中途採用者への研修

②、写真によるクッション早見表の作成し、レンタルクッションとそうでないものの区別化

③、車椅子の点検、管理

その他、実習生への福祉用具の説明会の開催、施設全体で個人向け福祉用具の推進。

4、令和4年度の目標・計画

目標 現場での福祉用具の活用が増えるように推進を図る

- ① ご利用者・スタッフに福祉用具を提案することができる。
 - ・カタログやWEBで福祉用具の紹介・提案
- ② 福祉用具の使用方法をスタッフに提案できる
 - ・新人・中途採用研修
- ③ 施設内にある福祉用具の管理
 - ・バーコード (QRコード) 管理による一元化

業務検討マネジャー

構成メンバー： 今村 堅山 太原 川崎

1、紹介

業務検討マネジャーでは、病棟マニュアルの見直し、業務改善を行い
事故防止や業務効率化を目的に取り組んでいます

2、目的

(記録の IT 化)

記録検討委員会と共に記録の IT 化を進めていく

(マターモストを活用しての業務の効率化)

- ・スタッフ全員がマターモストを活用できるようにしていく
- ・単に、お知らせ だけの活用ではなく各部署、委員会など情報交換にも活用できるようにしていく

(業務中の事故防止に努める)

危険箇所や危険が予想される事に対して、関連委員会に相談、対応策と一緒に考えていく

3、活動実績

記録検討委員会と共に寿への定着を図った

病棟マニュアルの確認・見直し

部署によって、マターモストを活用することによっての申し送りノートの廃止

部署によって、マターモストを活用することによって会議の時間の短縮

整理・整頓を行ない業務の効率化を図った

入浴時間の変更 (午後から午前) 午後のレクリエーションの充実 (GH)

時短スタッフの受け入れによるシフトの調整 (GH)

4、令和4年度の目標・計画

- ① マターモストを活用してのアンニュアル作成の継続
- ② 記録検討委員会と共に寿へ有効利用を考える
- ④ 各部署のマニュアルの見直しを行う
- ⑤ LIFE導入するにあたり他委員会などと連携を取り円滑に浸透できるようにする